

福島原発事故の教訓から、防災に関して何を学ぶのか？ 福島事故が問いかけているものに、仙台開催の国連防災世界会議の折だからこそ真摯に向き合い、世界に呼びかけたい

## 環境・原発災害と防災に関するシンポジウムのご案内

### 国連防災世界会議パブリックフォーラム

主催 東北大学大学院文学研究科・共催 日本環境会議

日時 3月16日(月) 14時-19時

会場 仙台市シルバーセンター第2研修室(仙台駅から徒歩約8分) \*会場は東北大学ではありません(ご注意ください) [http://drr.tohoku.ac.jp/venue/silver\\_center](http://drr.tohoku.ac.jp/venue/silver_center)

入場無料(事前申込は不要です)

<イベント概要>

東日本大震災と福島原発事故は、環境と防災に関して、復元力のあるコミュニティの建設と、維持可能な社会の構築のためにどのような政策的転換が必要なのか、新たな社会科学的问题・諸論点を提起している。3.11後の福島県や宮城県での現地調査をもとに、被災者・市民・NGOの視点から政策的課題群を検討する。

女川原発現地からの発言も予定されています。

14:00-14:05 挨拶と開催の趣旨説明 長谷川 公一・東北大学

14:05-14:40 第1報告 鶴見實・弘前大学(名誉教授)「放射性物質の飛散と滞留—福島原発事故前と事故後を比較する」(300km圏内の汚染の実情。東北ではどのように分布し飛散したのか、どこに溜まるか、どうなるのか。土壌へのチェルノブイリ事故の影響との比較、森の土の中ではどうなっているのか、スウェーデンから学ぶ)

14:45-15:20 第2報告 辻内琢也・早稲田大学「「原発事故被害者に遷延化する外傷後ストレス症状—繰り返される構造的暴力による社会的虐待」(1. 原発事故被害者の心理的ストレス: 4年間の大規模調査結果から。2. ストレスに影響する社会的要因の分析: 失業、生活費不安、近隣関係の希薄化、賠償問題、ふるさと喪失。3. 震災関連自殺: 構造的暴力による社会的虐待。4. 必要とされる社会的支援と政策形成)

15:25-16:00 第3報告 尾崎寛直・東京経済大学「避難者の生活課題と暮らしの再建」(1. 避難の困難さと派生する健康問題・避難の繰り返しと要援護者の負担・避難にともなう身体機能の低下、介護問題の発生 2. 暮らしと住宅の再建・住宅再建支援の問題・津波被災地域と原発被災地域の相違・生業とのリンク 3. コミュニティの再建に向けて・コミュニティ維持のための施策・制度・住宅再建とコミュニティの課題・「賠償」や「帰還」をめぐるコミュニティの分断)

16:05-16:40 第4報告 除本理史・大阪市立大学「避難・帰還と損害賠償」(1. 福島復興政策 4年間の帰結をどうみるか・福島復興政策とは・不均等な復興・賠償の4年間 2. 被害者の生活再建と賠償~川内村の事例から・避難費用、慰謝料/就労不能損害/営業損害の打ち切り・2年半前に賠償(慰謝料、避難費用)が切れている川内村の事例から)

16:45-17:20 第5報告 大島堅一・立命館大学「エネルギー政策転換に向けて」(1. 原発事故の費用と負担・原発事故費用は国民・電力消費者負担へ 2. 原発延命の構図・電力自由化に向けて、原発のリスクとコストを国民・電力消費者負担へ 3. 合理的な脱原発路線・経済的にみて不要な再稼働)

17:30-18:50 相互討論・質疑

18:50 まとめ 長谷川 公一